

I 統一論題

統一論題報告・討議

コンバージェンス後の国際会計のゆくえ

広瀬 義州

早稲田大学

いま、世界の企業会計はドラスティックに変革しようとしている。それは、日本基準はもとより、FASB基準さえも呑み込もうとするIASBを中心とする会計基準のコンバージェンスの波にある。とりわけ、2007年11月15日、SECは、2007年11月16日以降に終了する事業年度からIFRSとUS-GAAPとの調整表の作成を廃止し、SECに登録する外国企業にIFRSで作成した財務諸表を許容するコンセプト・リリースを公表¹⁾し、同様の規定を米国企業にも適用することを検討する旨を公表した²⁾。

一方、FASBもIFRSとUS-GAAPとの両者を認めることは、情報利用者の混乱を招くので、IASBに潤沢で安定した資金とスタッフを提供するシステムを確立させるとともにそれを支援する旨を表明した。また、FASBはこれまで各国が別途行ってきたリビューと承認（endorsement）プロセスを廃止し、各国はIFRSができた後ではなくIASBのデュープロセスで意見表明すべきと述べ、IFRSによる会計基準の統一を容認するとともに、事実上、FASBとアメリカ基準の消滅ととられかねない旨の衝撃のコメントをSECに提出した³⁾。これは、IASBによるコンバージェンスが急速に本格化していることにほかならない。さらに、その後12月に開催されたSECのラウンドテーブルにおいて、SECはIFRSsに移行するためのタイムテーブルを2008年6月中に提示する（その後この夏の終わりか、初秋までにと修正）旨を明らかにするとともに、発行体もFORM 10-KをIFRSにスイッチさせることに肯定的であった。さらに、2008年6月16日にFASBがスポンサーになりBaruch College開催されたシンポジウム（「高品

質なグローバルな会計基準：U.Sの財務報告の問題点と意義」）でもIFRSsへの全面採用（full adoption）が議論されたが、そこでも多くのパネリストは5年以内のIFRSsの全面採用を支持していた。

そこで、本年度の統一論題においては、コンバージェンスを見据え、それまでに何をどのように準備しなければならないのかについてパネリストの先生方に、次のようなタイトルでご報告お願いした。

第1報告 大崎孝三氏（US CPA）

「コンバージェンス後の会計士業務のゆくえ」

US CPA、日本のCPAおよびIFRS全面採用後のCPA試験制度問題、BIG 4の再編問題、IFRS採用の準備状況、CPAと税理士の垣根問題、CPAのトレーニング問題等

第2報告 西川郁生氏（ASBJ 委員長）

「IFRSの日本企業への適用について」

日米欧の会計基準を会計基準設定主体はコンバージェンスをどう分析しているのか、IFRSの選択適用問題、IFRSの国内的位置づけ、IFRSの適用と解釈、会社法とIFRS問題、CPA教育問題、日本の発言力、学識経験者とCPAへの期待等

第3報告 桜井久勝氏（神戸大学教授）

「コンバージェンス後の国際会計研究のありかた」

国際会計の研究領域が存在するか、日本の研究者のオリジナリティ問題、CPA試験制

度と国際会計教育問題, CPA 教育問題 (とりわけ日本), JAIAS の役割等

【注】

- 1) Securities and Exchange Commission, *Concept Release on Allowing U. S. Issuers to Prepare Financial Statements in Accordance with International Financial Reporting Standards*, Aug. 7, 2007, p. 1.
- 2) Securities and Exchange Commission, *Press Release: SEC Takes Action to Improve Consistency of Disclosure to U. S.*
- 3) Financial Accounting Standards Board, *FASB/FAF response to SEC releases*, Nov. 7, 2007.

Investors in Foreign Companies, Nov. 15, 2007.

SEC は 2007 年 12 月 21 日に規則の改定を行った (Securities Act Release No. 33-8879, Exchange Act Release No. 34-57026, Acceptance From Foreign Private Issuers of Financial Statements Prepared in Accordance With International Financial Reporting Standards Without Reconciliation to U. S. GAAP)。